

# タイトルをここに書く

－ サブタイトルがある場合はここに書く －

○年 明治 花子 駿河台 太郎 和泉 次郎

## 1. はじめに

この文書は、「情コミ・ジャーナル」の論文応募のためのテンプレートとなっている。論文は、このテンプレートと同じ体裁で作成すること。

なお、応募論文は Word を使用して作成するものとする。他のワープロソフトを使用する場合でも、ファイルの保存形式は Word 形式 (.doc または .docx) とし、Word で正しく表示されることを確認してから提出すること。

## 2. 論文の体裁

### 2.1 用紙サイズと文字数

論文は、A4 版、横書きで、1 段は 1 行 46 字で 36 行とする。

論文の文字数は 18,000 字以内とする。ただし字数に図および表は含めないものとする。

### 2.2 論文の構成

#### 2.2.1 タイトルと執筆者

1 ページ目の上の部分に、タイトル、サブタイトルがある場合はサブタイトルおよび執筆者氏名を書くこと。なお、この部分は段組をしないこと。

論文のタイトルは 18pt (ポイント) 太字 (ボールド体) で、サブタイトルは 14pt で、執筆者氏名は 10.5pt で書くこと。執筆者氏名は、学年のあとに全角空白を 2 つ入れ、苗字と名前の間に全角空白を 1 つ入れること。執筆者が複数の場合は、それぞれの氏名の間に全角空白を 2 つ入れること。

#### 2.2.2 章、節、項の構成

論文を章・節・項に分ける場合、以下のような通し番号を付すことを原則とする。

章 : 1. 2. 3. …

節 : 章番号.節番号

1.1 1.2 … 2.1 2.2 …

項 : 章番号.節番号.項番号

1.1.1 1.1.2 …

#### 2.2.3 文字サイズ

原則として、章タイトルは14pt太字、節タイトルは10.5pt太字とし、項タイトルおよび本文は10.5ptとする。

### 2.3 用字・用語・文体

常用漢字・現代かな使いとする。ただし、各専門分野における述語・専門用語についてはそれらに従うこととする。文体は「……である」調とする。

## 3. 注および参考・引用文献

### 3.1 注とは

本文中に引用した文献を表記するため、または本文中で説明することが論旨の展開上ふさわしくない補足的な事項を記載するために、注を用いる。

注のつけ方は、該当箇所の右上に1, 2, 3, … と通し番号を付し、論文本文の終わりに通し番号順にまとめて記載すること。

### 3.2 出典の明示方法について

#### 3.2.1 注における引用文献、参考文献の書き方

次の例を参考にして、統一的にもれなく記載すること。

[雑誌の場合]

執筆者名、論文名、雑誌名、巻・号、ページ、発行年を記載すること<sup>1</sup>。英語文献の場合も同様とする<sup>2</sup>。

[単行本の場合]

執筆者名、書名、出版社名、発行年、ページを記載すること<sup>3</sup>。英語文献の場合も同様とする<sup>4</sup>。

◎ 上記の雑誌、単行本の例は参考であり、この方式に限定されるものではない。当該学問分野の慣行にしたがって記載することも可なので、論文執筆の指導教員とよく相談すること。例えば論文末に参考文献ごとに番号を付した一覧を置き、本文または注において著者名と番号によって、参考文献を引用しても構わない。

[Web ページ、Web サイトの場合]

執筆者名、Web ページの名称、URL、参照した日付を記載すること<sup>5</sup>。

なお、Web ページ等は、参照できなくなってしまう場合が多いため、原則として引用は避け、これに代わる刊行物がある場合には、なるべくそれを引用すること。なお、Web ページ等をやむなく引用する場合には、注5のように記載すること。

#### 3.2.2 参考文献リスト

論文末に「参考文献リスト」を記載する場合には、そのリストに記した文献や Web ページを、執筆論文の本文または注のどの場所で参照したのかを、原則として、本文中または注に明記すること。

### 3.3 本文中での明示

論文末に「参考文献リスト」を記載する場合には、そのリストに記した文献や Web ページを、執筆論文の本文または注のどの場所で参照したのかを、原則として、本文中または注に明記すること。

## 4. 図および表

図および表は本文中に挿入することとする。また、下の例に示すとおり、図1、図2…、表1、表2…のように、それぞれ通し番号およびタイトルを付すこと。

文献や資料から引用した図表を掲載するときには、必ず当該図表の下に出典を明記すること。また、元の図表を加工してある場合は、「一部改変」や「何々をもとに作成」などの説明を加え、加工したことが明確に分かるようにしておくこと。

表1 表の例：発行スケジュール

要旨・目次提出締切	12/1 (金)
論文提出締切	1/11 (木)
校正	2月中 (予定)
論文集配布	卒業生 3/26 (火) 他学年 事務室

出典：「情コミジャーナル」論文執筆の手引き

表2 表の例：論文の体裁

用紙サイズ	A4	
段組み	1段組み 1段は46字, 36行	
文字数制限	本文18,000字以内 (脚注, 図表, 参考文献を含まない)	
文字サイズ	章タイトル	14pt 太字
	節タイトル	10.5pt 太字
	項タイトル	10.5pt
	本文	

## 注

- 1 情報一郎「コミュニケーション論」, 情報コミュニケーション学研究 1 巻 2 号, 345 頁 (2013 年)
- 2 Ichiro Joho, “On the Theory of Communication,” *Journal of Information and Communication Studies*, Vol.1, No. 234, (2013), pp.567-890.
- 3 情報一郎『情報論』(情コミ出版, 2013 年) 123 頁
- 4 Ichiro Joho, *Information Theory*(Information and Communication Studies Publication Ltd., (2013), p123.
- 5 情報コミュニケーション学部「情報コミュニケーション学について」

出典 : <http://www.meiji.ac.jp/infocom/>

(参照日 : 2013 年 7 月 29 日)